

## 阿南市の中学生が美波町の地方創生を見学に！

7月12日、阿南市立伊島中学校のみなさんが日和佐中学校との交流授業のため美波町を訪れました。その際にあわせて、美波町のサテライトオフィスなどを見学。地方創生についての学習を行いました。

イシマササユリの自生地として有名な伊島ですが、現在島民は約160名。中学校は全校生徒6名だそうです。子ども達のほとんどは高校進学を機に島外での生活を始めることとなりますが、なかなか馴染めず、離島育ちをハンディと感じ苦労する例も少なくないと言います。対策として毎年県内各地の中学校との交流授業を実施していますが、今回はより広い視野を養おうとサテライトオフィスの見学が計画されました。

故郷と同じような漁師町でありながら、ITをはじめとする先端技術を持つ企業がサテライトオフィスを置いていること。そしてそこには都会から技術をもった人たちが移住し、勤務していることに驚く子ども達。

ミナマリラボでは東京のオフィスと結んでのインターネット会議を体験しましたが、「設備があれば伊島でも同じことができそう」「職種によっては島に帰ってきて仕事ができるかも」と目を輝かせるシーンも見られました。

美波町でも少子化と、それに伴う小中学校の規模縮小はますます深刻になってきています。一度は離れても必ず帰ってくる、帰ってきたいと思ってもらえるようなまちづくり。Uターンの受け皿となる地方創生が必要とされているのではないのでしょうか。



サテライトオフィスだけでなく、IT企業を見学するの初めてという伊島中学校の生徒達。

## 美波の夏イベント。サテライトオフィス関係者も大活躍！

7月15日に行われた第19回ひわさうみがめトライアスロンでは、サテライトオフィス企業の株式会社鈴木商店、株式会社ヒトカラメディアがエントリー。サテライトオフィスに勤務する人だけでなく、大会のために来町という人も多く、リレー部門ではヒトカラメディアチームが2位入賞を果たしてイベントの盛り上げにも一役買いました。

また、前日に行われたうみがめまつりでは多くの企業が協賛し、門前町への出店にも協力するなど、まつりへ積極的に参加。このことについて質問すると「受け入れてくれている地元のみなさんに少しでもご恩返しになれば」という答えとともに、「町の一員として皆さんと一緒に楽しみたいから」という意見が多かったのも印象的でした。

また、7月12日には山河内のレストラン「odori」が、ウミガメをイメージした人気メニューの売り上げの一部を日和佐うみがめ博物館「カレッタ」に寄付するという出来事もありました。

町のシンボルを守ることで、今後もより多くの観光客を誘致できるようにとの思いを受け、「カレッタ」ではアカウミガメの保護や調査費用に使われるとのこと。

このような良い循環、良い関係が今後も様々な場所で生まれて欲しいものです。



サテライトオフィス、移住関係者はライフセイバーなどのボランティアにも参加。



カレッタに売り上げの一部を贈呈する「odori」の林さん。

## お知らせ

美波町の地方創生に関する新聞記事や雑誌が以下の場所でご覧いただけます！

日和佐地区：日和佐図書・資料館1階

由岐地区：由岐ふれあいホール(ぽっぽマリ2階)

制作：美波ふるさと創造広報チーム

